

ひろば

福岡教育大学学術情報センター図書館報 第151号

Side A : 後援会寄贈図書を紹介
教育総合研究所の研究プロジェクト図書
Side B : 教職員寄贈図書を紹介

後援会寄贈図書の紹介

今年も後援会からのご寄贈により、図書(456冊)とDVD(43本)が後援会寄贈図書コーナー(図書館2階)とAVルーム(図書館1階)に新たに加わりました。図書館HPにリストも掲載していますので、どうぞご覧ください。

☆

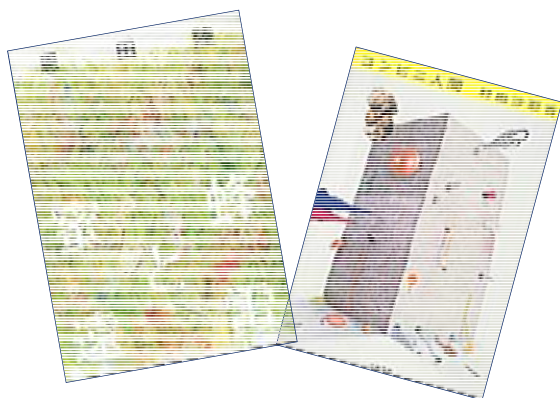
新刊は、カウンター前の新着本コーナーにポップを付けて展示しています。学生の皆さんからのリクエスト図書のほか、ベストセラーや各種の文学賞受賞本などもあります。

配架図書は随時入れ替わりますので、来館時には要チェック!です。



文学賞受賞作品図書

芥川賞	上期	村田沙耶香	「コンビニ人間」
	下期	山下澄人	「しんせかい」
直木賞	上期	荻原浩	「海に見える理髪店」
	下期	恩田陸	「蜜蜂と遠雷」(本屋大賞も受賞)



視聴覚資料 (DVD)

植物図鑑：運命の恋、ひろいました
超高速参勤交代 シリーズ
ちはやふる 上の句、下の句
世界から猫が消えたなら
シチズンフォー：スノーデンの暴露
プロフェッショナル：仕事の流儀 など



学生リクエスト図書

古市憲寿 「保育園義務教育化」
沼田晶弘 「ぬまっちのクラスが『世界一』の理由」
斉藤洋 「ルドルフとイッパイアッテナ」
田中治彦 「18歳選挙権と市民教育ハンドブック」
「子ども食堂を作ろう!：深刻化する子どもの貧困」
濱田秀行「クリティカルな思考を育む国語科学習指導」
など

★図書の購入リクエストは、図書館HPやOPACからのweb申込、あるいはカウンターにある購入リクエスト票でどうぞ。



福岡教育大学後援会からの寄附により、本学学生のために一般教養図書を購入できることを、心より感謝いたします。

教育総合研究所の研究プロジェクト図書

平成28年度、教育総合研究所の研究プロジェクト(高等教育部門)のひとつとして、「本学学生を対象としたアクティブ・ラーニングに関する学習環境の整備」を実施しました。その活動として、2階ホールに図書を配架していますので、どうぞご利用ください。

平成28年度 後援会図書 貸出ランキングは...

1位	大今良時	「聲の形」1巻～7巻
2位	クックパッドのおいしい厳選シリーズ	
3位	湊かなえ	「ポイズンドーター・ホーリーマザー」
4位	七月隆文	「ぼくは明日、昨日のきみとデートする」
5位	住野よる	「君の膵臓をたべたい」
6位	住野よる	「また、同じ夢を見ていた」
7位	「学校の先生ははじめました：楽しい?やらかい?ブ ラック?」	

教職員寄贈図書の紹介

今年4月までに図書館にご寄贈いただきました先生方の著書をご紹介します。

図書館開架室 福教大コーナーに配架していますので、どうぞご利用ください！

①若木常佳著 『大村はまの「学習の手びき」についての研究：授業における個性化と個別化の実現』



風間書房

2016年12月発行

国語科教師の大村はま先生は、公立の中学校の教室で「個性化に繋がる個別化」を実現しました。個別化とは、その個の特性やスキル等の状況に応じて必要な指導内容を考案・実施すること、個性化とは、学習全体を通して個々の学習が相互にかけがえのないものとして位置づき、価値づけられるということです。個別化はよく聞かれると思いますが、時として、その個別化は、子どもの自信を喪失させることもあります。なぜなら「到達させるために」行うことが多いからです。

個々の状況に応じながら、必要な力を伸ばしながら、しかし、学級全体での学習では、どの個も「その個ならではの」位置を持っている、だから、学級に「優劣」は存在せず、「優劣」を超えた学習が成立する、そんな夢のような学習。それを実現したものが、大村先生が独自に開発された「学習の手びき」です。本書では、「学習の手びき」の作成過程や種類、使われ方、もたらされる効果等を記しています。

(文：教職実践講座 若木常佳先生)

＜開架室 福教大コーナー 375.83||W19||福教大＞

②井上隆史、久保田裕子、田尻芳樹、福田大輔、山中剛史編 『混沌と抗戦—三島由紀夫と日本、そして世界』



水声社

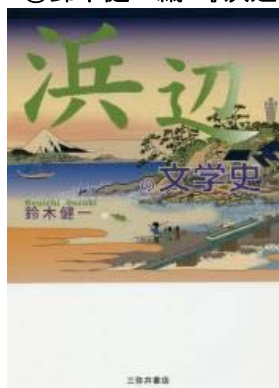
2016年11月発行

三島由紀夫生誕九〇年・没後四五年にあたる二〇一五年十一月、東京大学駒場キャンパスと青山学院大学で〈国際三島由紀夫シンポジウム2015〉が開催され、本書はその内容を活字化したものである。三島に関する国際シンポジウムは日本初の試みであり、さまざまな三島論が提出される場所となった。ドナルド・キーン氏、宮本亜門氏、本学国語科卒業生で詩人・評論家の高橋睦郎氏、芥川賞作家の平野啓一郎氏、写真家の細江英公氏など、三島を知る世代から若い研究者まで、英米独や韓国など国内外から三十人余りの登壇者を得て、聴衆は延べ八百人超であった。筆者はシンポジウムの実行委員と本書の編集委員を務めた。シンポジウム当日には本学教育学研究科国語教育コース大学院生の高田一樹、西貴大、田島優美が会場スタッフとして参加し、教員として必要な国際感覚を学ぶ場になった。

(文：国語教育講座 久保田裕子先生)

＜開架室 福教大コーナー 910.28||M53||福教大＞

③鈴木健一編 『浜辺の文学史』



三弥井書店

2017年2月発行

皆さんは「文学史」と聞いて何を想像するでしょうか？何年には『〇〇』が書かれて…なんて、年表のようなものを思い浮かぶかもしれません。ところが、文学史の中には、ある特定のテーマに基づいて、時代的にそのテーマがどう表されているかをみていくものもあります。たとえば、ある食べ物や、古代から現代まで作品中でどう表現されているのか、筋の中でどう用いられているのか、何かの象徴ではないか…等々。

『浜辺の文学史』は、古くは『万葉集』から、近現代の安岡章太郎まで、日本文学作品における、「浜辺」の現れ方について、各分野の専門家が論じています。この本は、読むことによって、「浜辺の文学史」を覚えることよりも、浜辺の作品中での使われ方を楽しみ、同時に自ら考える本です。なお、シリーズには、『鳥獣虫魚の文学史』（全四冊）、『天空の文学史』（全二冊）、『海の文学史』（いずれも鈴木健一編・三弥井書店）があります。興味のある人は、そちらも手にとってみて下さい。(文：国際共生教育講座 菊池庸介先生)

＜開架室 福教大コーナー 910.2||SU96||福教大＞